

脚本・スポーツ・レース 多彩な才能花開く

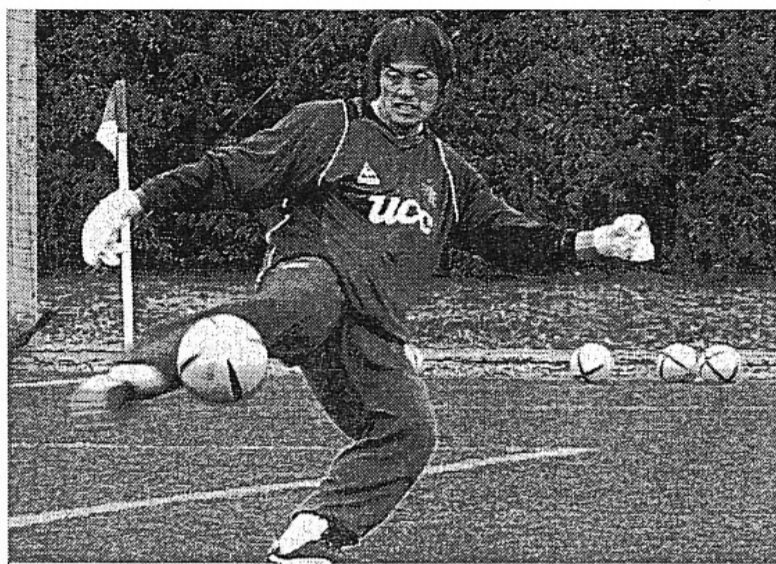
各分野で努力を重ねた卒業生たち。若い世代も、育んだ才能を開花させている。

脚本家の坂元裕二(37)＝写真、東京都目黒区、86年卒＝



は、小説に熱中していた。授業中はもちろん、登下校時には歩きながら読んだ。「好きだけ読めた。勉強に追いまわらず、自由だったおかげ」。文章力がつき、作文の出来も際立った。

卒業の1年後、フジテレビの「ヤングシナリオ大賞」を受賞。89年に人気漫画をドラマ化した「同・級・生」がデビュー作に。映画制作にも携わり、昨年ヒットしたドラマ「ラストクリスマス」と、映画「世界の中心で、愛をさけぶ」も担当した。



練習に励む橋崎正剛選手＝愛知県豊田市のトヨタスポーツセンターで

会。基本に立ち返り、自らを鼓舞するためでもある。

元日本代表DFでセレッソ大阪の柳本啓成(32)＝写真、



サッカー部は昨年、全国選手権に2年連続11回目の出場を果たした。Jリーグが次々と輩出し、いま現役は8人いる。

日本代表GKで名古屋グランパスエイトの橋崎正剛(29)＝95年卒＝は「がむしゃらに練習した」という。主将を務めた3年の時は、全国選手権で3位と歴代最高の成績を残した。

「サッカーの基礎、取り組み方、何事にも妥協を許さない」という信念、そして生活の心構えも学んだ。濃い3年間でした。帰郷した時は、できるだけ先輩の練習に顔を出し、監督の上間政彦(45)らに

柳本の同期で、国内トップクラスのレーシングドライバー道上龍(32)＝写真下、横浜市都筑区＝は、育英中1年の時からカートレースを始め、海外遠征もあり、定期試



女子のソフトテニス部も、強豪として知られる。実業団

91年卒＝はOBとして初のJリーグ。現役最年長でもある。「育英時代から続けてきた節制のおかげ。淡々とやった結果です」という。

全国選手権に出演し、1回戦を勝ったのが一番の思い出だ。「高校で一つのこと全力を注ぐのは、何であらうと大切。後の人生で自信につながる」

験を含めて、よく休み、同級生から不登校だと勘違いされたことも。「先生方の理解があったおかげで、レーサーになる夢を実現できた」

卒業の2年後から本格的に自動車レースに参戦。国内最高ランクの全日本選手権フォーミュラ・ニッポンにまで進出した。00年には全日本GT選手権でシリーズチャンピオン。鈴鹿1000km耐久では3度優勝し、昨年から伝統の世界的な自動車耐久レース「ルマン24時間」にも挑戦している。「レースの魅力を広めたい」と意欲を燃やす。

競い合い努力重ね 妥協せぬ信念育む



・東芝姫路の辻美和(25)＝写真右、兵庫県姫路市余部区、98年卒＝は盆と正月以外は練習漬けの日々。そのため食欲も進んだ。朝食にトースト4枚。昼も弁当以外に、パン代や飲み物代が約千円かかった。

全日本ジュニア選手権で、個人(ペア)とシングル二つで優勝するなど全国上位の常連に。「そばに強い選手がいて、いつも競い合いながら練習できたからです」

実業団では、日本代表として出場した02年のアジア大会(韓国・釜山、団体戦)で準優勝。東京インドア全日本大会(個人戦)では01、02年と2年連続で優勝した。いま今



屋地春奈さん(左)と藪内那未さんのペア＝奈良市法蓮町の奈良育英高校で

奈良育英高校は今回で終わります。次回からは県立奈良北(旧富雄、旧北大和)高校を紹介します。

学園は来年、創立90周年を迎える。「建学の原点・女子教育に再び取り組もう」と83年に設立した姉妹校の育英西中・高とともに、今後も多彩な人材を送り出そうと努めている。

秋の東アジア大会(マカオ)の代表入りを狙う。昨年の高校総体(インターハイ)団体戦では後輩たちが準優勝し、大いに喜んだ。この春卒業した屋地春奈(18)＝同王寺町＝と藪内那未(18)＝同＝たちだ。2人は小6以来、ペアを組んできた。中学総体で準優勝し、「優勝を高校で」と育英を選んだ。

総体では個人戦でも3位。直前に不調だっただけに、「開き直れて良かった」。屋地は今年のジュニアナショナルチームの一員に選ばれた。今月、屋地は関西学院大に進学。別々の道を歩み始めた。「実感がわかない。国体に出て、またペアを組めれば」

秋の東アジア大会(マカオ)の代表入りを狙う。昨年の高校総体(インターハイ)団体戦では後輩たちが準優勝し、大いに喜んだ。この春卒業した屋地春奈(18)＝同王寺町＝と藪内那未(18)＝同＝たちだ。2人は小6以来、ペアを組んできた。中学総体で準優勝し、「優勝を高校で」と育英を選んだ。

(敬称略)